

「新発想のスキンケア」

～簡単・時短・継続を追求した質の高いスキンケアに向けて～

第35回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 学術集会



セミナーレポート

ユニ・チャーム株式会社グローバル排泄ケア研究所は、2026年7月11日・12日に開催された「第35回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会」において、ランチョンセミナーを開催しました。当日は、座長に溝上祐子先生（東京医療保健大学教授）、講師に竹之内美樹先生（いちばらメディカルグループ統括看護部長／皮膚・排泄ケア特定認定看護師）をお迎えし、『新発想のスキンケア～簡単・時短・継続を追求した質の高いスキンケアに向けて～』をテーマに、大変有意義なセッションが行われました。多くの皆様にご参加申し込みをいただき、心より御礼申し上げます。

「簡単」「時短」「継続」で質の高いケアへ

「医療・介護の現場では人材の定着や生産性の向上が喫緊の課題となっており、タスクシフト・シェアが急速に進行している。現場における多様性への対応が求められる中、いかに「より簡単に」「より短時間で」、そして「継続可能な」ケアを選択していくかが、これからの時代を生き抜くための極めて重要な鍵となる。今回のセミナーを、そのためのヒントとして役立てていただきたい。」（溝上先生）

「おむつ多頻度交換の問題」

現場スタッフの負担軽減と労務の適正化

特に夜間の頻回なおむつ交換は、現場スタッフの大きな業務負担となっている。

コストと環境への影響

おむつの使用数増加に伴い、物品コストだけでなく廃棄コストや環境への負荷が増大している。

現場における心理的不安

パッドの長時間使用は「もれ」や「皮膚トラブル」が心配という不安の声が多く聞かれる。

セミナーでは、おむつの長時間使用に伴う「もれ」や「スキントラブル」のリスクへの対策が提示されました。最新の高性能尿とりパッドを用いた臨床結果に加え、新たなスタンダードを目指す「泡タイプの陰部洗浄剤」の有用性について、専門的な視点から分かりやすく解説がなされました。

「高性能パッドの臨床事例検証」

テープ止めおむつを使用している高齢者12名（平均年齢84.4歳、要介護3～5）の方において、最新の高性能尿とりパッド※を使用いただき、「もれ」や「肌の角層水分量」などについて評価した内容を発信させて頂いた。

※.『一晩中安心尿とりパッドSkinCondition
コンフォートナイト』

- 特徴①側臥位・座位の染み出しモレ低減
- 特徴②抗菌トップシートによる菌の増殖の抑制
- 特徴③高齢者に多い不純物混入尿も素早く吸収
- 特徴④臀部への尿の逆戻りを抑制
- 特徴⑤臀部の摩擦・ずれ力を低減

モレ・スキントラブルの
原因を
“未然に防ぐ”ために、
パッドの機能に注目！

IADについて

年々、IAD（失禁関連皮膚炎）の認知は広まりつつあるものの、IAD-setを用いての実践的なケアはまだ現場で浸透していないのが現状です。

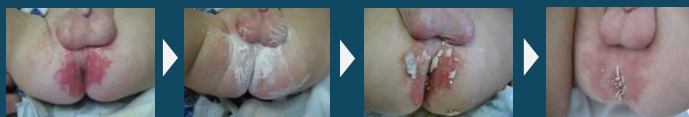
竹之内先生より、IADに関する基礎知識に加え、陰部洗浄のポイントについて講義頂き、以下のような話を伺いました。

皮脂成分を減少させないよう、臀部を洗う回数を1日1回にとどめます。さらに、皮膚のバリア機能を高め、摩擦や外界の刺激から守るだけで肛門周囲皮膚炎の予防につながるということです。

また、IAD発症後のケアとして、粉状皮膚保護剤を用いた具体的なケアの症例※も紹介いただきました。同剤を塗布して時間の経過とともにゼリー状の箇所が出現しますが、これを除去しないことがポイントです。

処置の症例を通じて、何よりもスキントラブルは未然に防ぐケアが重要であると発信いただきました。

※ケアの症例（左から右へ経過）



「すすぎ不要な泡タイプ」の陰部洗浄剤について

従来のさまざまな陰部洗浄は、ケアを担保するにあたり多大な時間と労力が必要でした。準備段階でのお湯やボトルの用意、洗浄時のすすぎの手間、さらには後片付けにおけるボトルの洗浄・消毒・乾燥など、多くの工程が負担となっています。

これらの解決に向け、新しい泡タイプの陰部洗浄¹剤を試みました。現場からは、「こびりついた便もしっかり落とせた」「皮膚がしっとりしていた」「業務の時短につながった」といったポジティブな声があり、ケアの質向上と業務の効率化が期待できると実感しました。

（竹之内先生）

※『おしり洗浄フォームSkinCondition』

1. 泡で出るので、液だれがなく、洗浄・保湿・保護剤を無駄なくお肌に届けることが可能
2. 汚れに触れると液体へ変化。液状になることで、質量のある便などの排泄物をふやかし、浮かし洗浄が可能
3. 事前の準備、後片付けの手間が不要で、陰部洗浄ケアの時短に繋がる。

スタンディングリフトの活用による 最高レベルのスキンケア

セミナー最後に、溝上先生よりトイレ排泄支援をスムーズに行う福祉用具として『スタンディングリフト（≡トイレ排泄支援リフト）』についてご紹介いただきました。人力による抱え上げは、介護者の指先が患者の身体に食い込み、過度な圧力や摩擦を引き起こします。しかし、リフトを活用して「点」ではなく「面」で身体を支えることで、脆弱な皮膚をまもり、移乗時の事故の減少も期待できます。そもそもトイレでしっかり排泄することは、皮膚の排泄物による汚染リスクを最小限に抑えることにも繋がります。ユニ・チャーム社はリフトの製造・販売企業ではないが、企業の垣根を越えて、このリフトの啓発活動を積極的に行っています。

（溝上先生）

■ 展示ブースでリフトの試乗体験も実施しました。

お客様の声

「初めて見ました！」

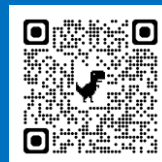
「操作が思ったより簡単ですね」

「整形ですが、患者さんの安心安全のために使用しますよ」

「病院でもこれがあれば、トイレにいける患者さんがいるかも。使ってみたい」

総括

おむつの交換回数が減少傾向にある現在のケア環境だからこそ、製品の付加価値をしっかりと見極め、適切な製品を選択することが求められています。本セミナーで紹介された尿とりパッド、陰部洗浄剤、トイレ排泄支援リフトなどの用具を組み合わせることは、「質の高いケア」と「現場の効率化」を両立させる大きな鍵となります。よりシンプルに、短時間で、誰もが継続できる仕組みを構築することこそが、これからの医療・介護現場における真の生産性向上に繋がると強く確信いたしました。



＜本レポートに関するお問合せ＞ 〒108-8575
東京都港区三田3-5-19 住友不動産東京三田ガーデンタワー
ユニ・チャーム株式会社 排泄ケア研究所 TEL:03-6722-1015